

2024年度

# シラバス



学校法人 湯梨浜学園

## 湯梨浜学園高等学校

〒689-0727 鳥取県東伯郡湯梨浜町田畑3-2-1

TEL (0858)48-6810 FAX (0858)48-6813

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 上代から現代に亘る作品世界を正確に理解し、的確に処理し、豊かに表現できる力を養う。 ② 現代文学・古典文学への関心を高めるとともに、思想・思考の幅を広げ心情を豊かに育む。 ③ 表現技法や古典文法を学びながら言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストなどで評価。 ② 思考・判断・表現…定期考査、課題提出物、提出レポートや発表資料などで評価。 ③ 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表、探究学習などで評価。				
学習方法	① 知識の定着に努め、様々な作品に触れその特徴を理解した上で世界観の正確な把握を目指す。 ② 教科書・図説・関係資料等を用い、文法を根幹とした読解力を身に付け、古典に対する興味を喚起する。 ③ 発表資料作成や受験対策問題集等を用い、受験レベル問題の解法、古典の探究・文学作品批評など幅広く学ぶ。				
教科書・教材等	言語文化（大修館） 古文単語コア350（旺文社） 古典グレートラーニング48レベル2（尚文） 古典文法10題ドリル古文基礎編（駿台文庫） 必携新明説漢文（尚文） 自作テキストなど				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	復習及び発展内容  古文：「宇治拾遺物語」 ・絵仏師良秀	表現の特徴を学ぶとともに古文の世界観を感じる。また、古典文法の助動詞を中心に理解を深めていく。	6	10	古文：「方丈記」 ・行く河の流れ	作者の人生観・社会観を形成した社会的状況を具体的な描写から捉え、無常観について理解する。対句表現や比喩などの修辞技巧を理解し、その表現効果について考える。	8
5	漢文： 「鶏鳴狗盗」（十八史略）  漢文： 「臥薪嘗胆」（十八史略）	漢文調の文体や寓意的な表現に注意しながら内容を捉え、人物や思想、背景などを理解させる。また、句法や句形を習得する。  作品の構成・展開・表現技法を学ぶとともに、作品を通して、当時の人々の考え方を学ぶ。	8	11	古文：「土佐日記」 ・門出 ・帰京	日記の形式や、文体、意図を理解し、作者の心情を味わって読む。また、表現や修辞、和歌、文体等の特色を理解する。	8
6	小説：「羅生門」	近代の代表的な小説を読み、描かれた人間の生き方や場面・心情の変化を表現に即して読み味わう。古の時代の人々が見、感じていた世界観を感じると共に、学び、活かせるようにする。また、古典文法・句法・表現について理解を深めていく。	8	12	小説：「セメント樽の中の手紙」  復習及び発展内容	時代背景と登場人物との関係を理解したり、会話文や手紙から登場人物の状況や心情を理解する学習に、意欲的に取り組む。	8
7	短歌： 十二首 俳句： 十五句	俳句・短歌に興味をもち、作品内の情景や心情を読み味わう。自分の作品を仕上げ、俳句・短歌の大会への応募を叶える。	6	1	古文：「更級日記」 ・あこがれ	京や作品などへの強い憧れを抱く作者の心情を理解する。また、女流日記文学や作者について概要を理解する。	6
8	復習及び発展内容		2	2	漢文： 雑説（韓愈）	当時の思想を読み解き、風刺に注意しながら内容を捉え、自然観・社会性・当時の人の考え方を感知取る。また、句法を習得する。	8
9	小説：「青が消える」  漢文：「故事成語」 ・画竜点睛・糟糠之妻 ・塞翁馬 (～11月)	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。  故事成語の叙述のおもしろさや意味の成り立ちを理解し、現在の用法に慣れる。また、漢文の句法を習得する。	8	3	復習及び発展内容		6

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理・共感・想像の力を伸ばし、言葉で伝え合う力を高める。 ② 深い思考力・読解力・表現力を身につけていく。その力を各種文芸コンテスト、検定に活かすことができる。 ③ 論理的思考力を養う文章、実社会に必要な文章を基に考えをまとめ、他者に分かりやすく表現できる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、単元別テストの取り組みで評価。 ② 思考・判断・表現…授業態度、発表用資料作成、課題提出物などで評価。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業への取り組み、発表で評価。				
学習方法	① 様々な教材を用いた先取り学習を行い、論理的な思考と確かな知識を身に付ける。 ② 学校独自教材や、型にはまらない多角的な国語へのアプローチ方法で生徒の発想と積極性を育てる。 ③ 他者に自分の考えや思いを、正しく分かりやすく伝えることを目指す取り組みを行う。				
教科書・教材等	現代の国語（大修館） 現代文グレートラーニング40レベル3（尚文） キーワードの卵（尚文） など				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	「白紙」	文章を読み論の進め方や表現について理解し、自分の考えを持てるようにする。  他者と意見を交わし、思考を膨らませることの基本を学ぶ。	6	10	「言葉についての新しい認識」	言語文化に関する文章を読み、文化・習慣の違いを対比しながら認識する。また、要約力を高める。  社会に溢れる様々なメッセージを正しく解釈する。	8
5	「水の東西」	文章の論理の展開の仕方を的確に捉え、内容を理解し、必要な情報を集め、要約する。  他者に意見を伝える際の文章のまとめ方を学ぶ。	8	11	「贅沢を取り戻す」	本文から、現代社会の抱える問題点を掴み課題解決の道を模索する力を養う。	8
6	「『安くておいしい国』の限界」	筆者の問題提起とその論拠について自分の意見をまとめる。  広い視野を持ち現代社会を捉える。	8	12	「作業ロボットの悲劇」	論理の展開を理解し、主張を読み取る。また、主体的に論理的な文章に触れ合う習慣を身に付け、他者に内容を伝える力を養う。	6
7	「美しさの発見について」	情報を比較しながら、文章を読むことができるようになる。	6	1	「インターネット時代の音楽産業」	統計資料を基に自分の意見を他者に伝えることができるようになる。また、説得力を持った論を展開するための資料作りができるようになる。	6
8	復習及び発展内容		3	2	入試問題演習	共通テストや大学入試の過去の問題を解き進めることで、培った自分の国語の力を発揮できるようにする。	8
9	「空気を読む」	評論の内容を吟味し、描かれた内容に対する捉え方の変化を読み味わう。	8	3	入試問題演習	共通テストや大学入試の過去の問題を解き、自分の課題や伸ばしたい能力について考える。その後、国語を学ぶ計画を立てることが出来る。	6

備考 ・適宜、作文・小論文指導を行う。

教科名	地理総合・歴史総合	科目名	地理総合・歴史総合	単位数	4
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 地理的な見方・考え方を働かせ、国際社会に主体的に生きる公民としての資質や能力を身につけることができる。 ② 18世紀以降の世界と日本の歴史的事象を考察する手がかりとなる概念・理論を習得する。 ③ 習得した基本的な考え方を活用し、考察できる。 ④ 諸事象の時系列的展開や変化、事象の比較・背景・結果などに着目し、関連させたりする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考査、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートなどをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 資料や文章史料をテーマに沿って読み取り、要点をまとめる。				
教科書・教材等	地理総合ワークブック（二宮）、新編地理資料（とうほう）、地理総合（二宮）、新詳高等地図（帝国書院） 現代の歴史総合 みる・読みとく・考える（山川出版社）				

年 間 授 業 計 画

地理総合				歴史総合			
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 地図とGISの活用	地球上の位置情報の基礎を身につける。図法によって異なる地図の特色をつかむ。領有権問題や海洋資源利用について考える。人や物・サービスの移動について理解する。GISの特徴を理解した上で、該当する地域の特徴を考察する。	6	4	第1章 結びつく世界と日本の開国	18世紀の東アジアの社会と経済、アジアの地域間での貿易と欧米諸国との新しい貿易、産業革命、中国の開港と日本の開国などを扱う。	6
5	第1章つづき		8	5	第1章つづき		8
6	第2章 地理的環境の特色	大地形の広がりや、プレートテクトニクスによるプレート境界と関連し、さまざまな地形を形成していることを理解する。大気や海流の循環のしくみを理解する。世界の気候を、ケッペンの気候区分をもとにして理解する。各地域の生活文化の特徴をとらえる。第1次産業・第2次産業の地域的な特徴をつかむ。第3次産業の地域的な特徴を理解する。宗教・言語分布や人々とのかかわりを、主題図などの資料を通して把握する。	8	6	第2章 国民国家と明治維新	アメリカ独立とフランス革命、明治維新をはじめとしたアジア諸国の変革、大日本帝国憲法の制定、列強の植民地形成、日清・日露戦争などを扱う。	8
7	第2章つづき		6	7	第2章つづき		6
8	第2章つづき		2	8	第3章 総力戦と社会運動	第一次世界大戦の展開、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、大戦後の国際協調体制、世界経済の変容とアジアのナショナリズムの動向、大衆の政治参加と大衆消費文化の形成などを扱う。	2
9	第2章つづき		8	9	第3章つづき		8
10	第3章 世界各地の生活文化	民族・経済・貿易・宗教・開発などの観点から各地域をとらえ、地域に存在する課題を理解する。地球環境問題について、将来予測図などを踏まえて、解決の取り組みを考える。	8	10	第4章 経済危機と第二次世界大戦	第二次世界大戦に向かう世界と大戦後の国際体制、及び冷戦の表面化、戦後の日本を扱う。	8
11	第3章つづき 第4章 地球的課題と国際協力	資源の分布の偏在性や国家間格差、将来的な課題について理解する。人口が集まる都市の特徴や、先進国・途上国での違いを理解する。都市問題を解決するため、各国が採ってきたこれまでの取り組みを理解する。	8	11	第4章つづき		8
12	第4章つづき		6	12	第5章 冷戦と世界経済	冷戦期の1950年代から60年代にかけての時期に、植民地からの独立と地域紛争が東西対立とどのように関連していたのかということや、地域統合の進展と社会主義諸国の動向、さらに高度経済成長が進む日本とアジアとの関係がどのように結ばれていたのかについて考える。	6
1	第5章 生活圏の諸課題	資料・主題図をもとに、日本列島における災害リスクを引き起こす要因となる事象を理解する。風水害・火山災害・地震・津波・都市型災害の具体的な事例を理解する。自然災害への備えをどうすればよいかを考え、減災意識を向上させる。GISを活用し、災害発生の可能性のある際の被害回避の方法等を提案する。日本が抱える地域的な課題について、主題図を適切に読み取る。	6	1	第5章つづき		6
2	第5章つづき		8	2	第6章 世界秩序の変容と日本	石油危機から現在までの時期に注目し、人・商品・資本・情報などが国境を越えて一層流動し、経済のグローバル化が進んだことを扱う。	8
3	第5章つづき		6	3	第6章つづき		6

備考

教科名	公民	科目名	公共	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 現代の諸課題を考察する手がかりとなる概念・理論を習得し、諸資料をもとに現在の問題を考えることができる。 ② 習得した基本的原理を活用し、事実をもとにしてさまざまな角度から考察できる。 ③ 現代の諸課題を主体的に解決しようとするすることができる。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能…定期考査、配信し書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ② 思考・判断・表現…授業内での態度・発言・発表、定期考査、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…授業態度・発表への取り組み、課題提出物、書きこんだ（入力した）ワークシートをもとに評価する。				
学習方法	① 教室での授業を基本とし、解説・補足説明をまとめ、基本事項をおさえる。 ② 副教材にて知識の定着を図る。 ③ 諸資料をテーマに沿って読み取る。				
教科書・教材等	公共（東京書籍）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1部 「公共」とびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち	青年期の特徴や発達過程について理解する。 日本・世界の思想家の考え方や「公」と「私」のとらえ方を理解する。	6	10	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	財政のしくみ・租税や国債の役割・社会保障の意義と現状について、実際の事象と関連付けて理解する。 働くことの意義・労働市場の役割・キャリア形成の課題について理解する。	8
5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的空間における基本的原理	ベンサム功利主義・ミルの内的強制力、徳倫理学の考え方、カントの義務論、ロールズの考え方を理解する。 民主主義・法の支配の意義や、人間の尊厳と平等における歴史的展開を理解する。	8	11	第4章 私たちの職業生活 第5章 国際社会の中で生きる私たち	労働契約の特性・労働三法の内容・日本の労働問題について、実際の事象と関連付けて理解する。 国際法の意義と役割・集団安全保障のしくみ・国際連合の役割などを理解する。	8
6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	地方自治・国会・内閣の役割と権限を、実際の政治事象を手掛かりにして理解する。 行政の肥大化、日本の選挙制度の課題、政党・政治資金の課題、ネット時代の世論形成と課題を理解する。	8	12	第5章 国際社会の中で生きる私たち	冷戦後の安全保障政策、紛争とその要因・難民問題の発生と解決に向けた取り組みを理解する。	6
7	第2章 法の働きと私たち	社会規範上の法の特徴、裁判における法の適用と解釈、私法の三つの原則を理解する。 消費者保護法制や契約の特徴を理解する。	6	1	第5章 国際社会の中で生きる私たち	国際収支統計の意味・リカードの比較生産費説が理解できる。 為替のしくみ・国際金融の動向について、実際の経済的事象と関連付けて理解できる。	6
8	第2章 法の働きと私たち	司法権の成立過程、裁判制度のしくみ、違憲審査制について理解する。	2	2	第5章 国際社会の中で生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	南北問題の背景と推移、人口問題、格差の是正に向けた取り組みを理解する。 第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	8
9	第2章 法の働きと私たち 第3章 経済社会で生きる私たち	刑事司法のしくみ、検察審査会制度について理解する。 経済主体と経済循環について実際の経済事象と関連付けて理解する。	8	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	第1章・第2章であったテーマから1つ選択し、課題を設定し、レポートを書く。	6

備考

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ(数学ⅠⅡ)	単位数	3		
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別		
学習の到達目標	① 高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数について理解すること。 ② 基礎的な知識の習得と技能の習得を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 ③ 数学的知識を活用し、表現できる力を育てる。						
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。						
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえる説明が書けるよう心がける。 ③ 今までに学んだ考え方・公式等と、授業で新たに学んだ考え方・公式のつながりを意識するよう心がける。						
教科書・教材等	高等学校 数学Ⅱ(数研出版) 改訂版 4STEP 数学Ⅱ+B(数研出版)、チャート式基礎からの数学Ⅱ+B(数研出版)						
年 間 授 業 計 画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学Ⅱ> 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	数の広がりや複素数まで学び、数の知識、理解を深める。  解と係数の関係で解に関するいろいろな問題が処理できるようになる。	9	10	3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用	三角関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。  三角関数の方程式や不等式の理解を深める。	12
5	第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点	剰余の定理を用いて、余りを求めることができるようにする。 高次方程式の理解を深める。 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。	12	11	第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	三角関数の加法定理を理解し、応用分野まで発展させる。	12
6	3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線	円の方程式、円と直線との関係を見出し、理解を深める。	12	12	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解する。	9
7	7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式	2つの円の位置関係を条件より求めることができるようにする。  与えられた条件を満たす点の軌跡を式で表せるようにする。	9	1	第2節 関数の値の変化 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	微分と積分法の間関係を理解し、増減表、グラフの応用まで活用できるようにする。	9
8	■図形と方程式問題演習		3	2	第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解する。定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。積分と面積の間関係を理解し、活用できるようにする。	12
9	9. 不等式の表す領域 第4章 三角関数 第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数	不等式を満たす点の集合が、平面上のある領域を表すことを理解する。  一般角や弧度法を理解し、それを用いて三角比が求められるようになる。	12	3	問題演習		9

教科名	数学	科目名	数学A(数学BC)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の目標	① 指数・対数関数、数列、ベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習得を図る。 ② 事象を数学的に考察し、処理する能力を育てる。 ③ 数学的な見方や考え方のよさを認識できる。				
評価の観点 評価方法	① 学期ごとに科目を10段階法で評価する。 ② 学年末には、全学期の成績をもって5段階法で評定を算定する。 ③ 評定にあたっては、ペーパーテストなどによる知識や技能のみの評価などの観点に偏した評定を行わず、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点による評価を踏まえて行う。				
学習方法	① 授業で学んだ数学的な見方・考え方、公式等の有用性を確認する。 ② 教材等を用いて、途中経過を丁寧に記述することを通し、他人に納得してもらえらる説明が書けるよう心がける。				
教科書・教材等	高等学校 数学B(数研出版)、高等学校 数学II(数研出版)、高等学校 数学C(数研出版) 4 STEP 数学II+B(数研出版)、チャート式基礎からの数学II+B(数研出版)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	<数学II> 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができ、また累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算することができるようにする。指数関数のグラフの概形を理解し置き換えによって方程式や不等式を解くことができるようにする。	6	10	第3節 数学的帰納法 9. 漸化式  10. 数学的帰納法	基本的なパターンの漸化式の問題が素早く解けるようにし、文章から式をたてることができるようにする。  数学的帰納法の考え方を理解し、等式や不等式の証明ができるようにする。	8
5	第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	指数と対数を相互に置き換えることができる。定義を理解し、公式を利用できる。  対数関数のグラフから、対数関数の性質を理解し、それらを用いた問題が解けるようにする。  常用対数の有用性を理解し、桁数の問題が解けるようにする。	8	11	<数学C> 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの演算	ベクトルについての基本的な概念を理解し、基本的な図形の性質や関係をベクトルを用いて表現し、いろいろな事象の考察に活用できるようにする。	8
6	<数学B> 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1. 数列と一般項	数列の定義・表記を理解し、関連する用語を適切に用いることができる。数の並びからその規則性を推定して、数列の一般項を考察できるようにする。	8	12	3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができるようにする。ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができるようにする。	6
7	2. 等差数列 3. 等差数列の和  4. 等比数列 5. 等比数列の和	初項と公差を文字を使って表すことができるようにする。また、和の公式を適切に利用できるようにする。  初項や公比を文字をつかって表すことができるようにする。また、和の公式を適切に利用できるようにする。	6	1	第2節 ベクトルと平面図形 5. 位置ベクトル	位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求めることができるようにする。	6
8	数列の問題演習		2	2	6. ベクトルの図形への応用 7. 図形のベクトルによる表示	位置ベクトルを用いて、始点の変更による式変形ができるようにする。線分上の点を、線分をs: (1-s)に内分する点として処理できるようにする。	8
9	第2節 いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列  8. いろいろな数列の和	Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。  数列の規則性の発見に階差数列を利用でき、もとの数列の一般項が求められるようにする。  和の求め方を工夫し、数列の和を求められるようにする。群数列を考察できるようにする。	8	3	平面上のベクトルの問題演習		6

教科名	理科	科目名	科学と人間生活(物理選択)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 物理的な事物・現象についての関心・探究心を高め、概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然を探究する能力や態度を高める。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	物理基礎(数研出版) センサー総合物理(啓林館)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学  2. 生命の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックの特徴、用途について理解する。</li> <li>リサイクルについて理解する。</li> <li>DNAの構造と特徴について理解する。</li> <li>タンパク質の合成について理解する。</li> </ul>	6	10	2. 熱と物質の状態 3. 熱と仕事 4. 不可逆変化と熱機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>状態変化を熱エネルギーから考察し、潜熱を求めることができ</li> <li>熱力学第一法則を理解する。</li> <li>熱機関のはたらきを理解し、熱効率を求めることができる。</li> </ul>	8
5	3. 地球や宇宙の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害について理解する。</li> </ul>	8	11	第3編 波 第1章 波の性質 1. 波の媒質と振動	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の分野で新たに導入される波長、振動数、周期などの定義を理解し、波を考察する。</li> <li>任意の座標や時間、<math>y-x</math>グラフおよび <math>y-t</math> グラフを描くことができる。</li> </ul>	8
6	〔物理基礎〕 第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動方程式を解き、加速度や速度を求めることができる。</li> <li>状況に応じて摩擦力を判断し、記述することができる。</li> </ul>	8	12	2. 波の伝わり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>重ね合わせの原理や定常波について理解する。</li> <li>自由端、固定端の時の波の反射について理解し、合成波を描くことができる。</li> </ul>	6
7	5. 液体や気体から受ける力  第3章 仕事と力学的エネルギー 1. 仕事 2. 運動エネルギー 3. 位置エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧力や浮力の発生原理について理解し、適切に公式が使える。</li> <li>仕事の定義を理解し、仕事を正確に計算することができる。</li> <li>運動、弾性、位置エネルギーを理解する。</li> </ul>	6	1	第2章 音 1. 音の性質 2. 発音体の振動と共振共鳴	<ul style="list-style-type: none"> <li>音を波として考察し、それによって理解ができる現象があることを知る。</li> <li>弦、閉管、開管の場合についてそれぞれ定常波の形を理解し、適切に記述できる。</li> </ul>	6
8	4. 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>存、エネルギーと仕事の関係を理解する。</li> </ul>	2	2	〔物理〕 第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1. 平面運動の速度・加速度 2. 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>2次元平面内の運動を物理基礎で学習した公式を応用して理解する。</li> </ul>	8
9	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 1. 熱と熱量	<ul style="list-style-type: none"> <li>温度の定義を確認し、熱エネルギーとの関係を学び、熱量保存則を理解する。</li> </ul>	8	3	第2章 剛体 1. 剛体にはたらく力とつり合い 2. 剛体にはたらく力の合力と重心	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きさのある物体について導入する力のモーメントについて理解し、つり合いの式を立て方を身に付ける。</li> <li>重心の定義を正確に理解し、様々な形の物体の重心を求めることができる。</li> </ul>	6

教科名	理科	科目名	学と人間生活(生物選)	単位数	2		
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 生物や生物現象についての概念や原理・法則を理解する。 ② 自然の事物・事象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高める。						
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価						
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。						
教科書・教材等	生物基礎(東京書籍)、生物(東京書籍) センサー総合生物(啓林館)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学  2. 熱や光の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチックの特徴、用途について理解する。</li> <li>リサイクルについて理解する。</li> <li>エネルギーの移り変わりについて理解する。</li> <li>電磁波の種類とその利用について理解する。</li> </ul>	6	10	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを理解する。</li> </ul>	8
5	3. 地球や宇宙の科学	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害について理解する。</li> </ul>	8	11	2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節	<ul style="list-style-type: none"> <li>腎臓と肝臓のはたらきを理解する。</li> <li>神経とホルモンによる情報伝達と分泌調節のしくみを理解する。</li> </ul>	8
6	〔生物基礎〕 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の多様性と共通性について理解する。</li> <li>生命活動とそれを支えるエネルギーについて理解する。</li> <li>酵素反応の実験観察を行う。</li> </ul>	8	12	4. 免疫	<ul style="list-style-type: none"> <li>免疫による生体防御のしくみを理解する。</li> </ul>	6
7	3. 光合成と呼吸  第2章 遺伝子と そのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>光エネルギーを化学エネルギーに変える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について理解する。</li> </ul>	6	1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移	<ul style="list-style-type: none"> <li>陸上でみられるさまざまな植生について理解する。</li> <li>植生が移り変わる過程とそのしくみについて理解する。</li> </ul>	6
8	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造と遺伝情報の関係について理解する。</li> <li>DNAモデルを作製する。</li> <li>遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。</li> </ul>	2	2	3. 気候とバイオーム 第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候ごとの植生と生物のまとまりを理解する。</li> <li>生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを理解する。</li> <li>炭素の循環に伴うエネルギーの移動について理解する。</li> <li>窒素の循環について理解する。</li> </ul>	8
9	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。</li> <li>遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について理解する。</li> <li>体細胞分裂の実験観察を行う。</li> </ul>	8	3	3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系のバランスとは何かを考える。</li> <li>生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について理解する。</li> </ul>	6

備考

教科名	理科	科目名	科学と人間生活(外進)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 自然現象に対する興味・関心を高め、目的意識をもって、観察・実験などを行う。 ② 科学的に調べる能力と態度を育てるとともに、自然現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	科学と人間生活(第一学習社)、化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	〔科学と人間生活〕 1. 物質の科学  2. 熱や光の科学	・プラスチックの特徴、用途について理解する。 ・リサイクルについて理解する。  ・エネルギーの移り変わりについて理解する。 ・電磁波の種類とその利用について理解する。	6	10	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境 1. 体液という体内環境	・細胞が安定した生命活動を維持できるしくみを理解する。	8
5	3. 地球や宇宙の科学	・自然災害について理解する。	8	11	2. 腎臓と肝臓 3. 神経とホルモンによる調節	・腎臓と肝臓のはたらきを理解する。 ・神経とホルモンによる情報伝達と分泌調節のしくみを理解する。	8
6	〔生物基礎〕 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生命活動とそれを支えるエネルギーについて理解する。 ・酵素反応の実験観察を行う。	8	12	4. 免疫	・免疫による生体防御のしくみを理解する。	6
7	3. 光合成と呼吸  第2章 遺伝子と そのはたらき	・光エネルギーを化学エネルギーに変える光合成と生命活動に必要なエネルギーを取り出す呼吸について理解する。	6	1	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布 1. さまざまな植生 2. 植生の遷移	・陸上でみられるさまざまな植生について理解する。 ・植生が移り変わる過程とそのしくみについて理解する。	6
8	1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報の発現	・DNAの構造と遺伝情報の関係について理解する。 ・DNAモデルを作製する。 ・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。	2	2	3. 気候とバイオーム  第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 物質循環とエネルギーの流れ	・気候ごとの植生と生物のまとまりを理解する。 ・生態系の成り立ちや生物どうしのつながりを理解する。 ・炭素の循環に伴うエネルギーの移動について理解する。 ・窒素の循環について理解する。	8
9	2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝情報の分配	・遺伝情報からタンパク質が合成される過程を理解する。 ・遺伝情報の分配と分配された遺伝情報について理解する。 ・体細胞分裂の実験観察を行う。	8	3	3. 生態系のバランス 4. 人間生活と生態系の保全	・生態系のバランスとは何かを考える。 ・生態系に及ぼす人間活動の影響と生態系の保全の重要性について理解する。	6

教科名	理科	科目名	化学基礎(理系)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍), 化学(東京書籍) センサー総合化学(啓林館), オリジナルテキスト				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基	・酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。	6	10	第3章 溶液の性質 1. 溶解 2. 希薄溶液の性質 3. コロイド	・溶解のしくみや溶解量について学ぶ。 ・蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下などの溶液の性質を学ぶ。 ・コロイドの性質を学ぶ。	8
	2. 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。					
5	3. 中和反応と塩の生成	・中和反応および塩の種類と性質を学ぶ。	8	11	第4章 固体の構造 1. 結晶 2. 金属結晶の構造 3. イオン結晶の構造 4. 分子結晶と共有結合の結晶	・結晶の成り立ちとその構造について学ぶ。 ・金属、イオン結晶格子について学ぶ。 ・分子結晶、共有結合の結晶について学ぶ。 ・アモルファスについて学ぶ。	8
	4. 中和滴定	・中和滴定の操作を習得し、量的関係を学ぶ。					
6	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元	・電子の授受による酸化還元反応の定義を学ぶ。	8	12	第2編 化学反応とエネルギー 第1章 化学反応と熱・光 1. 反応とエンタルピー変化	・熱化学反応式を学ぶ。 ・ヘスの法則を学ぶ。 ・結合エンタルピーを学ぶ。 ・化学発光や光合成について学ぶ。	6
	2. 酸化剤と還元剤	・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。					
7	3. 金属の酸化還元反応	・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。	6	1	2. ヘスの法則 3. 光とエネルギー		
	4. さまざまな酸化還元反応	・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気分解の原理を学ぶ。					
8	[化学] 第1編 物質の状態 第1章 物質の状態 1. 物質の三態 2. 気体・液体間の状態変化	・熱運動と三態について理解する。 ・分子間力と状態変化について理解する。	2	2			8
9	第2章 気体の性質 1. 気体	・体積、温度、圧力など気体に共通する法則について学ぶ。	8	3	第2章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡の移動	・化学平衡の法則を各平衡状態において考察する。 ・ルシャトリエの原理を学ぶ。	6
	2. 気体の状態方程式	・理想気体の状態方程式について学ぶ。 ・理想気体と実在気体の違いについて学ぶ。					

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(文系)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業での活動状況、課題の取り組み状況で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、オリジナルテキスト				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第2章 酸と塩基 1. 酸と塩基	・酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。	6	10	原子量・分子量・式量 物質質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
	2. 水素イオン濃度とpH	・酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。 ・水の電離とpHについて学ぶ。					
5	3. 中和反応と塩の生成	・中和反応および塩の種類と性質を学ぶ。	8	11			8
	4. 中和滴定	・中和滴定の操作を習得し、量的関係を学ぶ。					
6	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元	・電子の授受による酸化還元反応の定義を学ぶ。	8	12	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩の生成 中和滴定	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	6
	2. 酸化剤と還元剤	・酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。					
7	3. 金属の酸化還元反応	・金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。	6	1			6
	4. さまざまな酸化還元反応	・電池の性質を学ぶ。 ・水溶液の電気分解の原理を学ぶ。					
8	[化学基礎] 物質の成分 物質の構成元素 物質の三態 原子の構造 元素の性質と周期律	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	2	2	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属と酸化還元反応 電池・電気分解	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8
9	イオンとイオン結合 分子と共有結合 金属と金属結合 物質の分類	オリジナルテキストの演習問題に取り組みながら、基礎事項をおさえる。	8	3			6

備考

教科名	理科	科目名	化学基礎(外進)	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 化学の役割や物質の扱い方を理解する。 ② 物質に対する関心を高め、物質を探究する方法を身につける。 ③ 基本的な概念を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。				
評価の観点 評価方法	① 知識・技能・・・定期考査、実験技能やレポートの提出状況、及びその内容で評価 ② 思考・判断・表現・・・実力テストや定期考査で評価 ③ 化学の基本的な概念や原理・法則の理解・・・小テストや定期考査で評価				
学習方法	① 授業の板書内容をノートに整理し、要点をとらえる。 ② 授業時に行う演習で、基本事項を確実に押さえる。 ③ 自ら進んで問題演習を行い、理解を深める。				
教科書・教材等	化学基礎(東京書籍) センサー化学基礎(啓林館)、オリジナルテキスト				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1編 第1章 物質の構成元素  1. 物質の成分 2. 物質の構成元素 3. 物質の三態	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質の分類や分離、生成方法を学ぶ。</li> <li>単体、化合物、元素の概念を学ぶ。</li> <li>物質の状態変化について学ぶ。</li> </ul>	6	10	第2編 物質の変化 第1章 物質量と化学反応式 ・式量 1. 原子量・分子量 2. 物質量 3. 溶液の濃度 4. 化学反応式と量的関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>相対質量の概念を学ぶ。</li> <li>物質のモル質量の求め方を学ぶ。</li> <li>物質量とその単位「mol」について学ぶ。</li> <li>気体の密度について学ぶ。</li> <li>質量パーセント濃度とモル濃度の求め方を学ぶ。</li> <li>化学反応における物質の量的関係を物質量を用いて学ぶ。</li> </ul>	8
				8			
6	第2章 原子の構造と元素の周期表  1. 原子の構造 2. 元素の周期律と元素の性質	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子の構造、電子配置と原子の性質との関係性を学ぶ。</li> <li>元素の周期律と元素の性質を学ぶ。</li> </ul>	8	12	第2章 酸と塩基  1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度とpH 3. 中和反応と塩の生成 4. 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸と塩基の定義や性質、反応について学ぶ。</li> <li>酸と塩基の強さと、水素イオン濃度の関係を学ぶ。</li> <li>水の電離とpHについて学ぶ。</li> <li>中和反応および塩の種類と性質を学ぶ。</li> <li>中和滴定の操作を習得し、量的関係を学ぶ。</li> </ul>	6
7	第3章 化学結合  1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合 3. 金属と金属結合 4. 物質の分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>イオン結合のでき方と性質を学ぶ。</li> <li>共有結合のでき方と性質、配位結合について学ぶ。</li> <li>電気陰制度と分子の極性について学ぶ。</li> </ul>	6	1	第3章 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤 3. 金属の酸化還元反応 4. さまざまな酸化還元反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子の授受による酸化還元の定義を学ぶ。</li> <li>酸化剤と還元剤のはたらきから酸化還元反応を学ぶ。</li> <li>金属のイオン化列と化学反応との関係を学ぶ。</li> <li>電池の性質を学ぶ。</li> <li>水溶液の電気分解の原理を学</li> </ul>	6
				2			
9			8	3			6

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。 ② 音楽に関する感性を高める。 ③ 創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
評価の観点 評価方法	① 自己のイメージをもち、感性を働かし、創造的で個性豊かに技能を身に付けている。 ② 音楽文化に対する総合的な理解を深め、そのよさや美しさを個性豊かに味わう。 ③ 音楽文化を愛好・尊重し、個性豊かに意欲的・主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わう。				
学習方法	① 腹式呼吸による発声練習を通し、中学時に身につけた能力をさらに伸張する。 ② 基本的な楽典を学び、視唱（奏）力を身に付ける。 ③ 器楽による独奏・合奏。 ④ 作品の時代・文化背景を知り、世界の音楽をより深く理解・鑑賞し、多様性を学ぶ。				
教科書・教材等	高校生の音楽（教芸）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	豊かな表現を目指した歌唱 「Caro mioben」 「Sing」 「Danny Boy」 「The Sound of music」 「Happy birthday to you」	英語曲の学習による、難易度の高い演奏に重きを置く。	6	10	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。 * 9月からの継続	8
5			8	11	「少年時代」 「世界に一つだけの花」 「四季の歌」	自分の持つイメージ・感情を豊かに表現できているかを重視する。	8
6	器楽 ギター 「クリーガーのメヌエット」 「グリーンスリーブス」	鑑賞活動との関連を図りながら楽器の特徴や奏法の違いを体験的に理解し、美しい音色を求め演奏させる。	8	12	美しいハーモニーを目指す 3部合唱 「COSMOS」 「道」	調和するハーモニーを目指し、まとまりを大切にしながら作品を作り上げさせる。	6
7			6	1	音楽発表会にむけてのグループ練習	各グループに分かれ、歌・器楽演奏の発表に向け練習する。	6
8	鑑賞 日本と世界の諸民族の音楽鑑賞 オペラ・アジアの音楽 日本の音楽・ジャズ	歴史・文化・風土を含め、より深く、作品についての深い理解を目指す。各国の多様性と幅広い価値観を理解させる。	2	2			8
9			8	3	音楽発表会 グループ・個人による音楽発表会と相互評価 「卒業式関連唱歌」	1年を通して身につけた技術・表現力で、個々の個性を生かした歌唱・合唱・器楽等を行う。発表会形式の実技試験を行う。	6

備考： 曲目は変更される場合があります

教科名	芸術	科目名	美術 I	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	選択	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 表現および鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛する心情を育てる。 ② 感性を豊かにし、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養う。				
評価の観点 評価方法	① 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。(美術への関心・意欲・態度) ② 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。(発想や構想の能力) ③ 感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。(創造的な技能)				
学習方法	個人制作と一斉授業。				
教科書・教材等	高校美術 I (日文) 水彩用具、スケッチブック、資料、など				

年間授業計画画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	鉛筆で静物、風景、人物を描く。	対象をよく観察して形、明暗、量感、質感などを描写する。	6	10	水彩で静物、風景を描く。 * 9月の内容の継続	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	8
5			8	11	シナ材の板、石などから彫刻刀を使って掘り出す。	想像力を働かせて、自分らしい表現ができたか、最後まで仕上げることができたかどうかをみていく。	8
6			8	12			6
7	色鉛筆で静物、風景を描く。	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	6	1	デザインを表現する。	イラストレーションの表現方法を工夫して描く。	6
8			2	2			8
9	水彩で静物、風景を描く。	鉛筆デッサンで学んだ明暗、量感などを色彩で表現する。	8	3	鑑賞する。	洞窟絵画から現代美術まで、美術の流れの概要を理解する。	6

備考

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物を含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 各競技の技能を実技テストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 集団行動 ② 基礎的・合理的な運動の実践				
教科書・教材等	必要に応じて視聴覚教材				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	体づくり運動 ※体育理論 スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴	体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てることができる。	6	10	卓球	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
	陸上競技	スポーツの歴史、文化的特性のスポーツの特徴について理解できる。  記録の向上や競争の楽しさを味わい、各種目特有の技能を高めることができる。				勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
5			8	11	バレーボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
6			8	12			6
7	サッカー	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6	1	バスケットボール	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。	6
8			2	2	バドミントン	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。 ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と、連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	8
9			8	3			6

備考

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
評価の観点 評価方法	① 忘れ物や提出物などを含め、授業を通して自らを高めようとする意欲・関心・態度を評価する。 ② 保健分野における知識をテストによって総合的に評価する。 ③ 各学期ごと、自己の振り返り、努力・工夫したことを思考・判断として総合的に評価する。				
学習方法	① 教科書・資料を用いた学習				
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館書店）				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	健康の考え方	健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 健康の保持増進には、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択及び環境づくりがかかわること。	3	10			4
5			4	11	交通安全	交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などがかわること。また交通事故には責任や賠償問題が生じること。	4
6	健康の保持増進と疾病の予防	健康の保持増進と生活習慣の予防には食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。 喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があること。	4	12			3
7			3	1	応急手当	適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、心肺蘇生等の応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。	3
8			1	2			4
9	精神の健康	人間に欲求と適応機制には様々な種類があること。精神と身体には、密接な関連があること。また精神の健康の保持増進するには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であること。	4	3			3

備考

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	一斉
学習の到達目標	① 人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ② 家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につける。				
評価の観点 評価方法	① 思考・判断・表現…授業態度、提出物から評価する。 ② 知識・技能…ワークシート等や実技試験をもとに評価する。 ③ 主体的学習に取り組む態度…出席、提出物、実習での様子、振り返りレポートなどから評価する。				
学習方法	① 教室での一斉授業で内容を理解する。 ② 調理実習などの体験的活動により、実践的な態度を身につけていく。				
教科書・教材等	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				

年 間 授 業 計 画

月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	・生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して意思決定を行う重要性を理解する。 ・社会制度としての家族や家族と法律について知る。 ・仕事と家庭の両立や家庭生活と地域の結びつきについて知る。	6	10	第3章 子どもと共に育つ	・性と生殖に関する健康について学ぶ。 ・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもの生活習慣や衣食住について理解する。	8
5	第6章 食生活をつくる	・食生活の課題について考える。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について理解を深める。 ・食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	8	11	第4章 超高齢社会を共に生きる	・超高齢社会の背景を理解し、家族や地域による必要な支援について考える。 ・加齢に伴う心身の変化や高齢者の生き方や尊厳について理解を深め、高齢期を支える社会の仕組みや課題について考える。 ・高齢者の自立を支えるための適切な支援の方法や関わり方を考える。	8
6		・各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい、栄養バランスのよい食事」について学ぶ。 ・調理の知識と技能を身につけ、調理や加工によりおいしさが変化することを知る。 ・日本の食文化の特徴を確認する。世界の食文化にも関心を持つ。 ・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。  *調理実習：三食どんぶり	8	12	第8章 住生活をつくる	・住居の機能やライフステージごとの住要求を知る。 ・防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となるよう住居の条件を知る。 ・気候や風土の違い、時代の変化によって大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、4つの「助」に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	6
7	第7章 衣生活をつくる	・被服の機能や特徴について理解し、また社会生活を営む上での被服の役割を理解する。 ・被服表示を参考にして目的に応じた被服入手と装着について考えられる力を身につけ、被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	6	1	第5章 共に生き、共に支える 第9章 経済生活を営む	・家族・家庭生活を支える福祉について理解する。 ・国・地方公共団体の制度などの支援体制、支えあいの構造について理解する。 ・個人や地域の果たす役割やつながり方について考える。  ・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報活用について知る。 ・さまざまな販売方法や支払い方法を知り、契約の重要性を知る。	6
8		・環境に配慮した衣生活について考え、被服の洗濯や保管の方法を科学的に理解する。	2	2		・消費者保護制度について知り、消費者市民社会の実現に向けての行動化を考える。 ・経済的自立の重要性や将来を見通した働き方について知る。 ・家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて知り、持続可能な経済成長の実現に向けた行動化を考える。	8
9	*第6章 食生活をつくる	・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、和服や世界の民族衣装について理解する。 ・資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す。ユニバーサルデザインの被服について理解を深める。  *調理実習：パスタ、野菜スープ	8	3	第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	・持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルの工夫を考える。 ・人生の目標を達成し、自分らしい生活ができるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計をする。持続可能な社会の構築にむけた行動化を考える。	6



教科名	情報	科目名	情報I	単位数	1		
対象	高1	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。						
評価の観点 評価方法	① 情報への関心・意欲・態度。 ② 情報を適切に収集・処理・発信させるための基礎的な知識の理解。 ③ 授業態度、課題の内容と出席状況、総合演習の内容。						
学習方法	① 教科書の解説と問題演習 ② PCルームでの実習						
教科書・教材等	情報I(日本文教出版) 情報Iサブノート(日本文教出版)						
年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方	情報の特性を考える。 メディアの特性を考える。 問題解決の考え方を身につける。	3	10	第2節 アルゴリズムとプログラム	変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。  配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。	4
5	第4節 法の重要性と意義 —著作権 第5節 法の重要性と意義 —個人情報 第6節 情報社会と情報セキュリティ 第7節 情報技術の発展による生活の変化	著作権侵害について考える。 個人情報について考える。 サイバー犯罪について考える。  ソーシャルメディアの適切な活用方法を身につける。	4	11	第3節 モデル化とシミュレーション	モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。  プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。	4
6	第8節 情報技術の発展による社会の変化  第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	情報技術の発展と社会の変化を考える。  メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。	4	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	コンピュータネットワークの構成を理解する。  データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。  暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。	3
7	第2節 情報のデジタル化	アナログとデジタルの違い、2進法と情報量の単位との関係を理解する。  コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。	3	1	第2節 情報システムとデータベース	情報システムが社会をどのように支えているか理解する。  データベースの役割について理解する。	3
8	第3節 情報デザイン	情報デザインの考え方を知る。 情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。	1	2	第3節 データの活用	データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。  数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。	4
9	第3章 第1節 コンピュータの基本的な構成を理解する  第2節 アルゴリズムとプログラム	コンピュータの基本的な構成を理解する。  CPUによる演算のしくみを理解する。  アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る。	4	3	まとめ		3

備考

教科名	GSE情報	科目名	情報I	単位数	1		
対象	高1	履修形態	必修	授業形態	一斉		
学習の到達目標	① 急速に発達するITを効果的に使用する実践能力を高め、ITツールを用いて、思考力・判断力・表現力の高いプレゼン能力を身につける。						
評価の観点 評価方法	① 情報への関心・意欲・態度。 ② 情報を適切に収集・処理・発信させるための基礎的な知識と倫理観の理解。 ③ 授業態度、課題の内容と出席状況、総合演習の内容。						
学習方法	① 外部指導員による講義と実習 ② プレゼンテーション						
教科書・教材等	情報I(日本語教出版) 情報Iサブノート(日本語教出版)						
年 間 授 業 計 画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	AIリテラシー～導入	AIの得意・不得意を理解し、AIを何に活用できるのか考える。そしてどのような仕事がAIに奪われるのかを理解する。ビッグデータとAIを活用して新たな価値を創造するために、人間がすべきことを追及する。	3	10	AIのしくみについて学ぶ	マイクロビットを使い、環境測定を行うプログラミングを作成する。環境センサーで測量する。	4
5	データ・AIの活用領域	データサイエンスの技術は研究開発、製造、物流、販売、マーケティング、サービスの分野でどのように役立てられているか理解する。	4	11	AIによるデータサイエンスとシミュレーション	分析する対象領域をモデリングすることで、AIを用いたシミュレーションが行う。	4
6	データ・AIの活用	過去の行動パターンを特定し、将来の結果を予測するために、大量のデータに数理モデルを適用する予測分析する。	4	12	AIによるプレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備	3
7	データ・AIの活用	過去の行動パターンを特定し、将来の結果を予測するために、大量のデータに数理モデルを適用する予測分析する。	3	1	AIによるプレゼンテーション準備	プレゼンテーション準備	3
8	画像処理とAI	画像や映像のデータを対象にコンピューターに読み込ませ、処理を行う。	1	2	AIによるプレゼンテーション	プレゼンテーション	4
9	画像処理とAI	画像や映像のデータを対象にコンピューターに読み込ませ、処理を行う。	4	3	まとめ		3

備考

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ	単位数	3
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や聞き手の意図などを的確に理解できるようにする。 ③ 英語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価の観点 評価方法	① 4技能(読む・書く・聞く・話す)のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。(知識・技能) ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。(思考・判断・表現) ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。(主体的に取り組む態度)				
学習方法	① 予習にて、本文理解に必要な語彙や文法事項を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、積極的に教科書内容に触れる。 ④ 英語を通して、情報や主張・意見を的確に理解できるよう復習に努める。				
教科書・教材等	教科書 ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION I、ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II (東京書籍) 副教材 GRAMMARMASTER (Z会出版)、速読英単語必修編 (Z会)				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	ENRICH LEARNING I Unit1 What can happen in one second?	学校新聞の記事などを通して、1秒間に世界で起こっていることについて学ぶ。  【受身/不定詞/動名詞】	9	10	ENRICH LEARNING I Unit5 Why do people tell each other stories?	ウェブの記事などを通して、自分が体験したことを聞き手に語る際の秘訣を学ぶ。  【SVOC(分詞)/関係副詞how/助動詞の過去形】	12
5	ENRICH LEARNING I Unit2 What do superstitions mean to you?	機内誌の記事などを通して、さまざまな国や地域で信じられている迷信について学ぶ。  【助動詞+受身/現在完了進行形】	12	11	ENRICH LEARNING I Unit6 What are the qualities of a good leader?	オンライン百科事典の伝記などを通して、優れたリーダーシップを持つ人物の経歴を学ぶ。  【分詞構文/関係副詞where(when/why)】	12
6	ENRICH LEARNING I Unit3 How can we promote sustainability?	Eメールのやり取りなどを通して、ゼロ・ウェイスト政策について学ぶ。  【分詞の形容詞的用法/関係代名詞】	12	12	冬期集中講座		9
7	夏期集中講座		9	1	ENRICH LEARNING I Unit7 Where will you live in the future?	英字新聞の記事などを通して、今住んでいる場所を選んだ理由やそこでの暮らしの魅力について学ぶ。  【原形不定詞/仮定法過去完了/過去完了進行形】	9
8	夏期集中講座		3	2	ENRICH LEARNING I Unit8 How do cultures and traditions affect teens' lives?	ウェブ記事などを通して、世界中のさまざまな成人の儀式について学ぶ。  【関係代名詞what/関係代名詞の非制限用法】	12
9	ENRICH LEARNING I Unit4 What can we learn from native Hawaiians?	博物館のパンフレットなどを通して、ハワイ語やハワイ文化の歴史について学ぶ。  【現在完了の受身/過去完了形】	12	3			9

備考 学習進度または中心的に使用する教材は、クラスにより異なる。

教科名	外国語	科目名	論理表現Ⅰ,Ⅱ	単位数	2
対象	高校1年	履修形態	必修	授業形態	習熟度別
学習の到達目標	① 英語の音声や語彙、表現、文法などの理解を深めるとともに、これらの知識を4技能による実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるようにする。 ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じ、日常的な話題や社会的な話題について、情報や考え、話し手や聞き手の意図などを理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりすることができる力を養う。 ③ 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を養う。				
評価の観点 評価方法	① 4技能（読む・書く・聞く・話す）のための知識と技能を身につけているかという観点で、定期考査、実力テスト、小テストなどによる評価を行う。（知識・技能） ② 学習した知識や技能を活用して概要や要点などを目的に応じてとらえることができているかという観点で、定期考査、実力テスト、授業時における英語活動などによる評価を行う。（思考・判断・表現） ③ 異文化理解や英語を用いてのコミュニケーションへの主体的な取り組みという観点で、授業や課題への取り組み、提出物などによる評価を行う。（主体的に取り組む態度）				
学習方法	① 予習にて、本文理解に必要な文法事項、語彙を確認しておく。 ② 授業を通して、本文内容や文法事項などを理解する。 ③ 読む・聞く・音読する・書く・発表するなど、繰り返し積極的に教科書内容に触れる。 ④ 学習した文法事項や語彙などを復習し自分の伝えたい内容を英語で表現できるようにする。				
教科書・教材等	教科書 FACTBOOK English Logic and ExpressionⅠ、 FACTBOOK English Logic and ExpressionⅡ（桐原書店） 副教材 GRAMMARMASTER（Z会出版）、無双英語（本校オリジナル教材）				

年間授業計画							
月	学習内容	学習のねらい	時数	月	学習内容	学習のねらい	時数
4	FACTBOOK Unit 0 Get to know more about your classmate	・相手について知らなかったことを聞き出す。  【動詞、基本文型】	6	10		・情報を照らし合わせて条件に合うものを確認する。 【不定詞】	8
	FACTBOOK Unit 1 Smart home, smart city	・希望を伝え、スケジュールを相談しながら決める。 ・展示会についての感想をブログの日記に書く。 ・時を表す表現			FACTBOOK Unit 6 How can we become more health-conscious?	・自分の生活習慣を確認し、変えたい習慣を伝える。 ・相手からの悩み相談にアドバイスをする。 【動名詞】	
5	FACTBOOK Unit 2 History and future of our town	・通りを見ながら街並みの変化について説明する。 ・移住体験ツアーを進めるウェブの広告文を書く。  【完了形】	8	11	FACTBOOK Thinking Logically 3	・適切な具体例や説明が示されたまとまりのある意見文を書く。 ・フードロス減らすことについてプレゼンテーションをする。	8
					FACTBOOK Unit 7 How many clothes do you buy?	・贈るための商品を相談しながら決める。 ・プレゼントへの感謝の気持ちを伝える。  【分詞】	
6	FACTBOOK Thinking Logically 1	・意思を明確に示したまとまりのある文章を書く。 ・自分が将来、今の町に住み続けたいかスピーチをする。	8	12	FACTBOOK Unit 8 How do you decide which products to buy?	・おすすめの商品を比較しながら紹介する。 ・図表を見ながらパンフレットの内容を説明する。	6
	FACTBOOK Unit 3 Preparing for a natural disaster	・興味のある商品を紹介し、その特長を説明する。 ・防災意識を高めるパンフレットの文章を書く。  【助動詞】				冬期集中講座	
7	FACTBOOK Unit 4 Water supporting our lives	・相手が知らない情報を説明する。 ・問題に対処するための道具を紹介する。	6	1		【比較】	6
	夏期集中講座				FACTBOOK Thinking Logically 4	・つなぎ言葉を用いて論理的な流れの意見文を書く。 ・賛成と反対の立場に分かれて簡単なディベートをする。	
8		【受動態】	2	2	FACTBOOK Unit 9 A variety of ways to improve your English	・お互いの考える良い方法を具体的に説明し合う。 ・お互いの希望を伝えあい参加プログラムを決める。 【関係詞】	8
					FACTBOOK Unit 10 How can we become foreigner-friendly?	・相手の要望に合った提案をする。 ・外国人観光客に役立つパンフレットの文章を書く。 【仮定法】	
9	FACTBOOK Thinking Logically 2	・適切な理由が示されたまとまりのある意見文を書く。	8	3	FACTBOOK Thinking Logically 5	・語句や文のつながりをよくして構成の整った意見文を書く。 ・移住してきた外国人に伝えることをスピーチをする。	6
	FACTBOOK Unit 5 Save food you can still eat!	・お互いの状況を踏まえて問題解決の結論を出す。					

備考 学習進度または中心的に使用する教材は、クラスにより異なる。